様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24　年　6 月　7 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2009～2011
課題番号：２１３２０１３０
研究課題名（和文）　近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究

研究課題名（英文）　Comparative Historical Studies on Imperial Capitals（*Ducheng*）and these Systems in Pre-modern East Asia

研究代表者
新宮　学（ARAMIYA　MANABU）
山形大学・人文学部・教授
研究者番号：30162481

研究成果の概要（和文）：　研究会の開催と３回の海外調査の実施によって、隋唐の長安城でいったん完成の域に達していた中国都城が北方の遊牧的要素に加えて江南の経済発展の影響をも吸収しながら、明清の南京城や北京城において近世都城の完成段階にいたるという、中国都城史の展開過程に関する大まかな見通しを獲得することができた。
研究成果の概要（和文）：　Through the implementation of workshops and overseas research, We were able to acquire a broad outlook about the process, such as　deployment of Chinese Imperial Capitals（*Ducheng*）.　The imperial capital of China had reached perfection once in *Changan cheng* during *Sui* and *Tang* Period, while absorbing also the impact of the economic development of *Jangnan* in addition to the elements nomadic in the north, such as those found in *Beijing cheng* during *Ming* and *Qing* Period leading to the completion of stage.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2010 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2011 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総　計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：東アジア　　中国　　近世　　都城　　都城制　　宮城　　都市

１．研究開始当初の背景

日本おける東アジア都城研究は、従来、日本の古代都城（例えば、平城京や平安京など）への関心から、古代・中世の都城が主に研究対象とされてきた。とりわけ長安や洛陽に代表される中国都城との影響関係に焦点が当てられてきた。

しかしながら、都城や都城制を構成するさまざまな要素について十分な較史的な検討が行われてきたわけではない。たとえば、ユーラシアの諸地域では、近代直前にいたるまで都城（王都）を囲む城壁が存在していた（羽田正「都市の壁―前近代ユーラシア王都の都市プランと象徴性」2003 年）。また日本を除く東アジア諸地域では、これらの城壁や城門の存在によって明確に意識されていた都市空間が、それぞれの地域における政治・経済や文化・社会のありようを大きく規定し続け

てきた。したがって、都城と都城制についての比較史研究は、東アジア諸地域の伝統社会の特質を解明するうえで重要な手がかりを与えてくれる。

東アジア社会では、１９世紀末以来、近代都市の建設や鉄道・自動車等の交通網を整備する中で、それまで都市空間を規制していた城壁や城門などの建造物の多くが解体撤去された。これにより、近代都市の経済発展がもたらされる一方で、都市域の郊外への無秩序なスプロール現象が始まり、自然破壊と環境悪化が一段と進んだ。また近年の急激な経済発展によって、超高層ビル建設など都市再開発が急ピッチかつ大規模に進められている。このため、近世以来の都市空間を構成していた歴史的建造物とその景観、および都城遺構は、重大な危機に瀕している。これまでの多くの研究蓄積を有する古代・中世の都城研究にとどまらず、近世都城についても比較史研究の必要性はますます高まっている。

２．研究の目的

本研究では、東アジアにおける近世都城を構成する諸施設（城壁と城門、宮殿配置、官庁街、祭祀施設など）を共通テーマとする研究会を積み重ねて比較史研究を行うとともに、中国を中心とする近世都城遺址の現地踏査を実施して、共同研究を進めるうえでの大前提となる共通理解を深める。

目的とするところは、中国における隋唐長安城から北宋開封城をへて明清北京城にいたる都城史の展開過程、および東アジア諸地域における都城の地域的展開を、主に文献資料をもとにこれまで各自が進めてきた研究に、歴史地理や考古発掘の新たな知見を加えて総合的に解明することにある。

３．研究の方法

研究代表者および連携研究者を中心に「近世東アジア比較都城史研究会」を組織し、東アジアの近世都城の歴史的展開と地域的特徴を解明すべく、都城空間と宮城空間に関する諸問題を共通テーマにした研究会を開催した。研究会は毎回公開で行い、研究代表者と連携研究者全員による研究報告をもとに議論を深めた。

また毎年実施した海外共同調査では、近世都城に的を絞って、現地踏査を行った。北宋の開封城（河南省）、遼の上京城（内モンゴル巴林左旗）、遼金の中京城(内モンゴル寧城県)、金の中都城（北京市）、モンゴルのカラコルム、元の上都城（内モンゴル正藍旗）・大都城（北京市）・中都城（河北省張北県）、明の南京城（江蘇省南京市）・中都城（安徽省鳳陽県）・北京城（北京市）と、近世東アジアの代表的都城遺址のほんとを踏査し、それぞれの都城についての歴史地理や考古学的知見を共有して共通理解を得ることに務めた。

４．研究成果

(1) 2009 年度は、6 月と 1 月の 2 回の研究会と 9 月の海外調査を中心に共同研究を行った。6 月の山形大学での研究会は、２日間にわたって行われた。研究代表・連携研究者９人のうち、国外出張の２名を除く７名が研究報告し、各自が近年進めている東アジア都城史研究の概要について報告し、相互の理解を深めた。また今後３カ年の共同研究の進め方と海外調査の計画について協議した。

１月の研究会は、橋本義則を代表とする基盤研究（B）「東アジア諸国における都城及び都城制の比較を通じてみた日本古代宮都の通時的研究」と合同で山口大学において開催した。第１日目は、中国社会科学院考古研究所の劉振東氏を招いて漢長安城の発掘調査に関する報告を踏まえ、中国古代都城についての認識を深めた。２日目は、中国の複数都城制に関する久保田和男・渡辺健哉・中村篤志・新宮学４名の報告をもとに検討を加えた結果、中国近世の複数都城制と皇帝巡幸の密接な関係が浮かび上がった。

また９月には、中国都城調査（南京・鳳陽・開封）を実施した。東晋の建康城、宋の開封城、明の中都城、南京城等の都城遺跡を踏査して、都市再開発が急速に進展する中で緊急発掘による考古調査を行っている現地の発掘担当者から直接情報を収集した。北宋開封城から明清北京城へと展開していく中国近世都城史の系譜についての共通理解を深めるとともに、南京大学では新宮・橋本が、河南大学では久保田がそれぞれ研究報告を行い、現地の研究者と交流した。

さらに２月には、中国社会科学院考古研究所の董新林氏による遼代上京城址と祖陵の発掘調査に関する講演会を開催した。

(2) 2010年度は、6月の研究会と夏の海外調査を中心に共同研究を進めた。

6 月 26 日 27 日の両日にわたって行われた研究会では、共通テーマ「都城空間をめぐる諸問題」をもとに研究代表・連携研究者を含む科研のメンバー9 名全員が中国・朝鮮・モンゴル・日本の都城についてそれぞれ研究報告を行い、都城空間の形成過程や景観認識について比較史的考察を深めた。また海外調査の打ち合わせと事前準備を兼ねて、連携研究

者の中村と渡辺が調査予定のモンゴル都城に関する近年の研究成果の概要を紹介し、共通理解を得た。

夏のモンゴル国都城踏査は、8 月 29 日から 9 月 7 日までの日程で、オルホン河流域に展開するカラコルム遺跡、エルデニ・ゾー、ホショー・ツァイダム、ハルバルガスンの遺跡を中心に踏査した。

とくに、カラコルム遺址の踏査やモンゴル科学アカデミーの考古研究所とドイツ国による合同の発掘現場の見学により、元の上都や大都に直接つながるモンゴル帝国時代の都城遺跡に止まらす、それ以前のウイグルや突厥時代までも視野に入れてモンゴル国の都城史の展開をたどる必要性を痛感した。モンゴル都城調査では、元科学アカデミー歴史研究所所長・元国立歴史民族博物館館長のオチル氏の周到な案内により、限られた日数であったが極めて効率よく踏査することができ、遊牧地域に建設された都城について多くの知見を獲得することができたのは大きな成果であった。また中村の紹介で科学アカデミーの歴史研究所と考古研究所の研究者とも交流することができたことも有益であった。

(3)2011 年度も、6 月の研究会と夏の海外調査を中心に共同研究を進めた。

6 月 25 日 26 日の両日にわたって行われた研究会では、共通テーマ「宮城空間をめぐる諸問題」をもとに研究代表・連携研究者を含む科研のメンバー8 名が中国・朝鮮・日本の都城の宮城空間に関わる諸問題についてそれぞれ研究報告を行い、宮城空間の機能とその変遷について様々な角度から比較史的考察を深めた。また夏の海外調査の打ち合わせを行った。

9 月 6 日から 9 月 14 日までの日程で行われた中国河北・内蒙古都城遺址調査では、明土木堡（河北省懐来県）、元中都（張北県）、察罕脳児行宮（沽源県小宏城）、元上都（内蒙古正藍旗）、応昌故城（克什克騰旗）、遼上京・祖陵（巴林左旗）、遼中京（寧城県）の遺跡を踏査することができた。

とくに、柴立波氏（張北県元中都遺址管理処常務副主任兼文物局局長）の案内により元中都遺址と新設されたばかりの元中都博物館を見学、董新林氏（社会科学院考古研究所）の案内により遼上京城遺址の発掘現場を見学できたことはとても有益であった。今回の調査に全日程参加した研究協力者の成一農氏（社会科学院歴史研究所）には、調査都城遺址に関する中国側資料の収集にあたり多くの協力を得た。

なお、研究期間中に開催した「近世東アジア比較都城史研究会」の研究成果を広く普及するために、出版助成等を得て論文集『近世東アジア比較都城史の研究』（仮題）の刊行を現在準備しているところである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 33 件）
（論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻号、最初と最後の頁、発表年（西暦）

1. 新宮学、中国近世における羅城―明代南京の京城と外郭城の場合―、『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、3-22 頁、2011 年
2. 新宮学、北京城と葬地―明王朝の場合―、『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、141-164 頁、2011 年
3. 新宮学、明清北京城の禁苑、『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、370-373 頁、2011 年
4. 新宮学、明嘉靖年間における北京天壇の成立と都城空間の変容、『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、395-397 頁、2011 年
5. 妹尾達彦、都城の時代の誕生、『歴博　特集東アジアの都城』167、国立歴史民俗博物館、査読無、2-7 頁、2011 年
6. 妹尾達彦、東アジア比較都城史研究の現在、『中国-社会と文化-』26 号、中国社会文化学会、査読有、177-192 頁、2011 年
7. 妹尾達彦、東アジア都城時代の誕生、玉井哲雄編『国立歴史民俗博物館国際シンポジウム アジアの都市－インド・中国・日本－』、国立歴史民俗博物館、査読無、25-62 頁、2011 年
8. 妹尾達彦、東亜都城時代的誕生、『唐史論叢』14 輯、陝西師範大学出版社、296-311 頁+付図 2 頁、2011 年
9. 妹尾達彦、隋唐長安城と郊外の誕生、『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会、査読無、2011 年、106-140 頁
10. 妹尾達彦、隋唐長安城の皇室庭園、『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会、査読無、269-329 頁、2011 年
11. 橋本義則、日本古代の宮都と葬地、『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、230-254 頁、2011 年
12. 橋本義則、日本古代宮都の禁苑概観、『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会、査読無、344-369 頁、2011 年
13. 馬彪、城址と墓葬に見える楚王城の非郡

県治的性格、『東アジア比較都城研究』、京都大学学術出版会、査読無、91-105 頁、2011 年
14. 馬彪、雲夢楚王城における禁苑と沢官の二重性格、『東アジア比較都城研究』京都大学学術出版会、査読無、259-268 頁、2011 年
15. 馬彪、古代中国帝王の巡幸と禁苑について、『アジアの歴史と文化』15 号、査読無、2011 年、15-30 頁、
16. 桑野栄治、韓国における近世都城史研究の動向―都城空間をめぐる諸問題、『久留米大学文学部紀要（国際文化学科編）』28 号、査読無、2011 年、17-31 頁
17. 桑野栄治、朝鮮初期の「禁苑」―景福宮後苑小考、『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会、査読無、2011 年、330-343 頁、
18. 桑野栄治、朝鮮初期の圜丘壇と北郊壇、『東アジア都城の比較研究』京都大学学術出版会、査読無、2011 年、379-394 頁
19. 久保田和男、メディアとしての都城空間と張択端『清明上河図』―五代北宋における政治文化の変化によせて、『清明上河図と徽宗の時代』勉誠出版、査読無、50-81 頁、2011 年
20. 久保田和男、北宋徽宗時代與張擇端清明上河圖- 圍繞政治文化與都城空間的視線、『宋　史研究論文集　2010』湖北人民出版社 、査読無、65-87 頁、2011 年
21. 渡辺健哉、元の大都における仏寺・道観の建設―大都形成史の視点から、『集刊東洋学』、査読有、105 号、64-81 頁、2011 年
22. 中村篤志、清朝治下モンゴル社会におけるソムをめぐって―ハルハ・トシェートハン部左翼後旗を事例として、『東洋学報』、査読有、93 巻 3 号、1-25 頁、2011 年
23. 中村篤志、北京値班王公の日記について、（モンゴル文）、『モンゴル史研究と史料』（CNEAS Report）、査読無、vol.2、84-89 頁、2011 年
24. 新宮学訳、楊国慶：南京台城の今昔、『山形大学歴史・地理・人類学論集』11 号、査読無、29-33 頁, 2010 年
25. 妹尾達彦、都市の千年紀を迎えて－中国近代都市史研究の現在－、『アフロ・ユーラシア大陸の都市と宗教』、中央大学人文科学研究所、査読無、63－140 頁、2010 年
26. 馬彪、「龍崗秦簡にみる禁地「闌入」罪と関連律令」、『東洋史苑』76 号、査読無、2010 年、1-19 頁
27. 久保田和男、玉清昭応宮とその炎上―宋真宗から仁宗（劉太后）時代の政治文化の変化によせて、『都市文化研究』12 号、査読有、133-145 頁、2010 年
28. 渡辺健哉、元大都的宮殿建設、『元史論叢』、査読有、13 輯、13-19 頁、2010 頁
29. 渡辺健哉、元の大都における中央官庁の建設について、『九州大学東洋史論集』、査読有、37 号、49-71 頁、2010 年
30. 妹尾達彦、中国都城の沿革と中国都市図の変遷－呂大防「唐長安城図」の分析を中心にして－、舘野和己編『古代都城のかたち－空間・制度・思想－』、同成社、査読無、176-202 頁、2009 年
31. 馬彪「『龍崗秦簡』禁苑律と『唐律疏義』衛禁律との比較」、『異文化研究』3 号、査読無、111-122 頁、2009 年
32. 林部均、飛鳥宮－大極殿の成立－、『都城制研究(2)』奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム報告集 23、査読無、17-36 頁、2009 年
33. 渡辺健哉、科挙制よりみた元の大都、『宋代史研究会研究報告第 9 集「宋代中国」の相対化』、査読有、汲古書院、183-210 頁、2009 年

〔学会発表〕（計　3　件）
1. 新宮学「洪武の都、南京城の景勝」明清史夏合宿 2011　第Ⅱ部「伝統都市の形成」2011 年 8 月 11 日、京都市 聖護院の宿坊 御殿荘
2. 新宮学「中国近世的羅城―以明代南京敵京城和外郭城為例」中国首届世界城市史論壇、2010 年 10 月 29 日、中国杭州市
3. 新宮学「関于近世中国皇城的成立」南京大学歴史学系・中国伝統文化研究院講座　2009 年 9 月 17 日　中国南京市

〔図書〕（計　2　件）
1. 橋本義則編『東アジア都城の比較研究』、京都大学学術出版会、査読無、1-414 頁、2011 年
2. 久保田和男『宋代開封研究』（中文、郭万平訳）、上海古籍出版社、査読無、1-296 頁、2010 年

〔その他〕ホームページ等
「近世東アジア比較都城史研究会」の紹介記事と同研究会のプログラム
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/new_pdf/44-1_08.pdf
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/pdf/090627-28_asia_kouen.pdf
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/pdf/100626_kouenkai.pdf
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/pdf/201105_asia.pdf

６．研究組織

(1)研究代表者

新宮　学　(ARAMIYA　MANABU)
山形大学・人文学部・教授
研究者番号：30162481

(2)連携研究者

妹尾　達彦　(SEO　TATSUHIKO)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：20163074
橋本　義則（HASIMOTO　YOSHINORI）
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：60164802
馬　彪（MA　PIAO）
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：20346539
桑野　栄治（KUWANO　EIJI）
久留米大学・文学部・教授
研究者番号：80243864
林部　均　(HAYASIBE　HITOSHI　)
国立歴史民俗博物館・大学共同・准教授
研究者番号：70250371
久保田　和男（KUBOTA　KAZUO）
長野工業高等専門学校・一般科・教授
研究者番号：60311023
渡辺　健哉（WATANABE　KENYA）
東北大学・文学研究科・専門研究員
研究者番号：60419984
中村　篤志（NAKAMURA　ATSUSHI）
山形大学・人文学部・准教授
研究者番号：60372330

(3)海外研究協力者

張　学鋒（ZHANG XUEFENG）
南京大学歴史系・教授
劉　春迎（LIU CHUNYING）
開封市文物考古研究所・所長
Ａ．オチル（A.OCHIR ）
元モンゴル科学アカデミー歴史研究所所長・元国立歴史民族博物館館長
董　新林（DONG XINLIN）
中国社会科学院考古研究所・研究員
成　一農（CHENG YINONG）
中国社会科学院歴史研究所・副研究員